

## ほくりく「食」と「農」の消費者ネット意見交換会(石川県)の概要

日時：令和7年12月15日(月曜日)

場所：北陸農政局1階第三会議室

令和7年12月15日、「第5次食育推進基本計画について」を本年度のテーマとして、石川県内の消費者団体6団体等から計13名の方々を招いて意見交換会を行いました。

最初に、各団体の方々から、北方領土返還運動に伴う歯舞昆布販売、食文化の継承、食品表示調査、消費者被害防止、フードバンク、フードドライブ、食品ロス削減運動、プラスチックごみ削減運動、ローリングストック・災害時の献立紹介、農業体験教室、農産物収穫体験(被災地の組合員を招待)、魚市場セリ見学の取組など、令和7年度に取り組みされた活動を中心に発表していただきました。その後、情報交換を行い交流を深めました。

続いて、消費・安全局消費者行政・食育課 課長補佐から、食育の推進に関する枠組み・体制や近年の食育の状況について説明したのち、第5次食育推進基本計画の検討状況について報告し、検討中の重点事項である①学校等での食育の強化、②「大人の食育」の推進、③国民の食卓と農業の生産現場の距離を縮める取組の拡大の3つの項目に沿って食育の取組事例を紹介しました。

出席された皆様から、多くの意見等をいただきました。主な内容は以下のとおりです。

### ○大人の食育について

・地域で料理教室を開催すると、ほとんどの参加者が基本的なことをわかっていない。今は、おいしい冷凍食品や地場産物の冷凍食品、手ごろな価格のものもあるので、一から料理を作ることはこだわらず、冷凍食品などを利用して身近なところから始めていけばよいと思う。

→(消費・安全局) 子供の場合、学校等で教育の機会があるが、大人になってからは自ら学ぶことが難しいということも考えられる。そのため、特に食に関しては、大人の消費者が日々接している食品関連事業者と連携することで、働き掛けができるということも考え、令和7年6月に官民連携食育プラットフォームを立ち上げた。現在、プロジェクト活動として、朝食を食べようプロジェクト、バランスよく食べようプロジェクト、食や農の現場を体験しようプロジェクトの3つを展開している。

### ○学校給食について

・石川県には、九谷焼や輪島塗など地元の器があるので、例えば学校給食で郷土料理が出されるときに地元の器を使うなど、伝統文化に触れる機会の提供を行政が進めてほしい。

## ○共食について

・朝ごはんを学校で食べようという会を、小学校で作らせていただいた。学校でシャカシャカおにぎりを自分で作って、みんなで食べるのですが、「みんなで食べるとおいしい」、「家族はいるが朝忙しいので、朝ごはんは一人で食べている」という子供の生の声も聞くことができた。みんなで食べる、家族みんなで食べるというところを更に進めてほしい。

・「共食」という言葉に違和感を覚える。音読みにするとほかの言葉と混同してしまいそうなので、是非、訓読みにしてほしい。例えば「トモシヨク」など、もう少しなじむような、テレビのワイドショーなどでも普通に使われるような言葉になるよう工夫してほしい。

## ○食育の担い手について

・若い方向け、シニアの方向けなど、その年代に応じた食育教育が必要と思う。今日、企業による食育の取組や官民連携食育プラットフォームの取組を紹介していただき、今後その取組が広がっていくと思う。そうなれば現役世代の人は企業が取り組む食育の対象となるが、現役世代でない方たちの食育を担っていくのは、高齢化の一途をたどっている食育ボランティア団体となる。このボランティアの方たちをどう育成するか、また、集ったり団体を作ったりすることが苦手な若い方が活動に一歩足を踏み入れてくれるための仕掛け作りが、今後の課題だと思う。

## 意見交換会出席者

### 【消費者団体】（6団体、13名）

金沢市校下婦人会連絡協議会、石川県生活学校連絡会、JA 石川県女性組織協議会、NPO 法人消費者支援ネットワークいしかわ、石川県生活協同組合連合会、（公社）石川県栄養士会

### 【石川県】

農林水産部ブランド戦略課

### 【講師】

農林水産省消費・安全局消費者行政・食育課

### 【北陸農政局】

北陸農政局次長

北陸農政局地方調整官（石川県担当）

北陸農政局消費・安全部長

北陸農政局消費・安全部消費生活課長 ほか